

コリント人への手紙第一 6:1-11 意見の相違に対する向き合いかた

今朝はまず皆さんに簡単な質問をしたいと思います。皆さんは今まで出会った全てのクリスチャンと仲良くされていますか。もし、仲良くされているなら、もっとたくさんのクリスチャンと会う必要があると思います。地域の教会や他のクリスチャンも、他の様々なグループと同じで、常に皆と仲良くできるわけではありません。それどころか、時には意見の相違がとても大きくなり、個人間だけではなく、運営上の不一致にまで発展することもあります。教会の外でそのような事が起こった場合、多くは関係を絶ち切ったり、争いの深刻さによっては裁判を起こし、裁判所が責任と過失を判断するのが普通です。ですが教会ではそのようであるべきではありません。このことが今日の聖書箇所であるコリント人への手紙第一 6:1-11 のポイントです。教会におけるクリスチャン同士の意見の相違は、クリスチャンとして解決すべきものです。祈ってから、それが具体的にどういうことなのかを見ていきましょう。祈ります。

一見、第一コリント 6 章は 5 章とあまり繋がりが無いように思えます。ですが、この箇所を学べば学ぶほどに、この箇所が不道德な者を教会から除くようにという命令の続きであることが分かります。神は私たちにこの世の罪人たちを裁き、そうした人たちから離れて生きることを求めている訳でも、それを望んでおられるわけでもありませんが、教会においてクリスチャンだと言いながら罪深いことをし続けるものたちを裁くべきだとパウロは説明して 5 章を終えます。ですから、教会での意見の相違について裁判で争うのではなく、教会においてそれに向き合う時、教会における行いの裁きを適用することをパウロは論じているわけです。6 章の最初の 11 節では、罪にどう向き合うかを必ずしも述べている訳ではありませんが、教会の中で意見の不一致について話しています。それは些細な意見の違いと言うよりも、この世的に見れば誰かを訴えて裁判で解決しなければならないような問題です。そのような意見の違いが起こった場合、クリスチャンとしての解決がなされる必要があります。それはどういう意味でしょうか。この箇所にあるのはその問いに対する答えです。クリスチャンとして意見の相違を解決するとはどのようなことかという問いに対する最初の答えが、最初の 7 節にあります。

「1 あなたがたのうちには、仲間と争いを起こしたら、それを聖徒たちに訴えずに、あえて、正しくない人たちに訴える人がいるのですか。2 聖徒たちが世界をさばくようになることを、あなたがたは知らないのですか。世界があなたがたによってさばかれるのに、あなたがたには、ごく小さな事件さえもさばく力がないのですか。3 あなたがたは知らないのですか。私たちは御使いたちをさばくようになります。それなら、日常の事柄は言うまでもないではありませんか。4 それなのに、日常の事柄で争いが起こると、教会の中で軽んじられている人たちを裁判官に選ぶのですか。5 私は、あなたがたを恥じ入らせるために、こう言っているのです。あなたがたの中には、兄弟の間を仲裁することができる賢い人が、一人もいないのですか。6 それで兄弟が兄弟を告訴し、しかも、それを信者でない人たちの前でするのですか。7 そもそも、互いに訴え合うことが、すでにあなたがたの敗北です。どうして、むしろ不正な行いを甘んじて受けないのですか。どうして、むしろ、だまし取られるままでいないのですか。」ここに見られる答えの一つ目は、問題を信者同士の間で留めておくということです。パウロの主張は、信者であるということとは、この世を裁かれる神の御国に属することであることなので、信者間の議論について救われていない裁判官が裁きを下すべきではないということです。それが、私たちが御使いを裁くようになるということの意味です。パウロはおそらく、サタンを頂点とする墮落した天使たちが神によって裁かれるという真実について思いを巡らしていたのだと思います。ペテロの手紙第二 2:4 は「神は、罪を犯した御使いたちを放置せず、地獄に投げ入れ、暗闇の縄目につないで、さばきの日まで閉じ込められました。」とあります。私たちは神が御使いを裁かれるという事を知っていますが、御子であるイエス・キリストが御使いを含むすべてのものの上におられることも知っています。エペソ人への手紙 1:21-22 は「すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。22 また、神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、すべてのものの上に立つかしらとして教会に与えられました。」と言っています。また、私たちのアイデンティティは「キリスト

の内に在る」ことを私たちは知っています。そしてキリストの血によって贖われた者、神の民として、最後の審判において墮落した御使いたちの裁きに何らかの形で関わることとなります。それなのに、最後の審判の時、墮落した御使いたちと共に罪裁かれる者たちに、この地上の些細な食い違いに対する裁きを委ねます。それこそパウロがここで言っている、教会での意見の不一致を教会の外の未信者のもとに持って行くことに対する議論です。

ではここで彼が問題としている不一致とはどのようなものでしょう。彼が「日常の事柄」と言っているのはどのようなことなのでしょう。お金や持ち物に関することや、意図しない危害に関することのように思えます。重い罪や犯罪に関することであれば、その人、つまりその罪を教会から排除することが相当な策となります。必要に応じて社会の法制度に委ねるということです。性的に不道徳だった男の件にも見られたように、今日の教会でも子どもや大人に対して性的虐待や犯罪行為があった場合は、おなじ原理が適用されるでしょう。これは教会の問題だ、とするのは間違っています。女性や子どもを虐待する者は、ほとんどの場合男性ですが、パウロが教会から追い出し、サタンに引き渡すよう言った男と同じような性質を持っています。私たちの責任は、加害者が男性であれ女性であれ、その責任を追及するために必要な法的措置を取れるよう支援することによって、被害者を助ける事です。話を続けるにあたってははっきりさせておきましょう。この箇所に取り上げられているのは、犯罪的な行為や他人を肉体的に傷つけたり虐待したりするような行為についてはありません。ですが、私たちに経済的な損害を与えるようなことや、自分たちのプライドゆえに認めたくない過ちを認めざるを得ないようなことです。パウロは続けて、クリスチャンとして意見の相違に向き合うとはどのようなことか、2つ目の点に触れています。

2つ目の点は、不正を甘んじて受けるということです。7節を読み進めましょう。「どうして、むしろ不正な行いを甘んじて受けないのですか。どうして、むしろ、だまし取られるままでいいのですか。」自分たちで信者同士の問題を解決し、世の審判には委ねないとするなら、望む全てを得られないかも知れません。ですが、それはクリスチャンの兄弟姉妹に対して抱くべき愛と謙虚な姿勢に適っています。ピリピ人への手紙 2:3 は「何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、互いに人を自分よりすぐれた者と思いなさい。」と言っています。ヨハネの福音書 13:35 は「互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」と言っています。後にコリント人への手紙第一の 13 章で、パウロは愛の本質について詳細に述べています。その 13 章の 4-5 節にはこうあります。「4 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず」ですから、キリストに在る兄弟姉妹を本当に愛するという事は、この世的に見れば、時に敗者になることを意味するのです。パウロを通して神が私たちに語っておられることはそういうことなのでしょう。そうです。まさにその通りです。

いくらでも好きなように解釈しようとはできますが、ここに述べられているのはお金や財産、地位や社会的な名声などを失うよりも、愛と一致が神の王国、つまり教会では重要だという事です。アジア文化圏では、常に面目を保つこと、恥をかかないようにすることがとても重要です。ですが、私たちの価値観がお金や財産に価値を置く資本主義的なものであれ、名誉に価値をおくものであれ、神の価値観でないとしたらどうでしょうか。私たちは他者と接する際に、愛、へりくだり、一致といった神の価値観を持って接する必要があります。残念ながら、私たちもクリスチャンとしてコリントの信徒たちのような振る舞いをしてしまうことがあります。パウロは 8 節で「あなたがた自身が不正を行い、だまし取っています。しかも、そのようなことを兄弟たちに対してしています。」と指摘しています。つまり、人間関係を守るためにだまし取られることをいとわないばかりか、もっとひどいことをしていた訳です。中には、おそらく金銭的な利益のために、裁判で他人をだます者までいました。全く同じではないかも知れませんが、教会をビジネス的なコネクション作りや商品売るために利用する人たちを見たことがあります。こうしたメンタリティはパウロが語っていることと同じものです。もちろん、教会のように親しい間柄の中

でも商売をすることは自然な事です。ですが、もし取引がうまくいかなかったり、問題があった時に、そうした関係を単なるビジネス上の取引としてしまうのでしょうか。そうするべきではありません。私たちは、事業を営み、ビジネス上の関係を築いている他の人たちとは違います。

クリスチャンとして意見の相違に対してどのように向き合うべきかの3番目の点は、**私たちは自分たちの新しい性質に従って行動する**ということです。9節を見て下さい。「9 あなたがたは知らないのですか。正しくない者は神の国を相続できません。思い違いをしてはいけません。淫らな行いをする者、偶像を拝む者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、10 盗む者、貪欲な者、酒におぼれる者、そしめる者、奪い取る者はみな、神の国を相続することができません。11 あなたがたのうちのある人たちは、以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」皆さんの利益とキリストに在る兄弟姉妹の利益との間を裁く人たちは、神の御国を受け継ぐ者たちではありません。しかも、この世の知恵に従って決断するという罪深い生き方をしています。神の知恵とこの世の知恵について論じることに、パウロが多くの時間を割いているのは偶然ではありません。キリストを知る私たちは、神の御国で神の子どもとして共に永遠に生きます。そうであれば、この世の問題についてキリストに在る兄弟姉妹を訴える価値があるでしょうか。お金や財産、土地、仕事など、この世では裁判で争われるようなことも、新しいアイデンティティゆえに、私たちは兄弟姉妹の間では扱いが異なるべきです。

その正体を証しするようなライフスタイルで特徴付けられる罪深い人たちと私たちは違います。私たちの中には、キリストに出会う前にはそうした人たちと同じだったという者もいたでしょう。私たちのライフスタイルも彼らと同じ罪深いアイデンティティによって特徴付けられたものでした。ですが今はキリストに在って、キリストと共にない人を特徴づける罪とは正反対の存在となりました。代わりに、私たちは聖霊によって聖くされ、義とされ、満たされています。聖くされるとは私たちが聖い存在にされるということです。それは救いのときに起こります。キリストに在って私たちはもはや罪人ではなく、聖人、聖い者、聖別された者となったのです。それは地位的に聖い者とされたということです。つまり、神は私たちをイエス・キリストの義の下にある者、あるいは義をまとった者として見て下さるということです。ただちに罪がなくなるという訳ではありません。まだ罪と闘っているけれども、罪によって私たちが何者かが定められる訳ではなくなったという事です。罪が私たちを特徴づけるのであれば、私たちは救われていないことになります。キリストは私たちを聖くされただけでなく、義ともしてくださいました。私たちは皆、自分の罪のために死の罰に定められた者です。ローマ人への手紙 6:23 は「罪の報酬は死です」と言っています。私たちは自分の罪故に死の報酬を受けるべき存在です。ですが、イエスに立ち返り、イエスを主であり救い主として受け入れるとき、イエス・キリストが十字架で既に払って下さった犠牲のゆえに、私たちには自分の罪の代価を払う必要がないと宣言してくださいます。これが義と認められるということです。神が罪人に無罪を宣告して下さるのです。それは私たちが何かをしたから起こったことではなく、全て神が成して下さる事です。イエス・キリストの内に私たちが在るときだけ、聖霊の働きによってのみ起こる事です。テトスの手紙 3:5 には「神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。」とあります。

今日ここにいらっしゃる方の中で、まだイエス・キリストを自分の主であり救い主として受け入れておられない方は、神のみ言葉である聖書によれば、今日の聖書箇所に掲げられている罪を犯した人々と同じ「罪人」というアイデンティティを共有する方です。ですが、福音の良い知らせは、イエス・キリストの死ゆえに、私たちは自分たちの罪から救われ、新しくされることができるといことです。ローマ人への手紙 5:8 にはこうあります。「しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。」キリストに出会う前の私たちのアイデンティティが罪人であったのなら、その同じアイデンティティに戻るべきではありません。ですから、クリスチャンとして意

見の相違に向き合うためには、まずそれを信者の間に留める事、次に、不当な扱いを甘んじて受ける事、そして、新しいアイデンティティに従って生き、古いアイデンティティを反映するような行動や態度を拒むことです。

そのようなことが本当に教会で起こるのだろうかと思っておられるかも知れません。不健全な教会ではそうした事が起こるだろうけれど、まさか私たちの教会では怒らないだろうと思っておられるかも知れません。ですが、このような不一致は全ての教会で起こる可能性が十分あるので、これまで私たちは教会として、些細な意見の違いから、より深刻な問題にまで他の教会よりも上手に対応してきたと思います。この世に在る限り、意見の相違は避けて通ることはできませんが、もし不一致が教会で起こった場合、可能な限り教会内で解決する聖書的な責任が私たちにはあります。クリスチャン同士の調停を専門とするクリスチャンの団体もあります。いまだ解決に向けて動いている最中ですが、YIBCは信仰を共にする仲間との賃貸契約に関する問題を裁判に持ち込むことなく解決できるよう、クリスチャンの弁護士を雇いました。教会の長老や牧師が与えられている理由の一つは、信徒の間の意見の相違を解消するためでもあると思います。

教会に執事が与えられている理由の一つも一致のためであり、時には意見の違いを解消することも含まれます。前回、教会における規律についてお話した時にマタイの福音書18章を引用しましたが、そこでは問題をいきなり教会全体に訴えるのではなく、まずは個人的に話し合い、必要に応じて他に一人か二人を連れて行って解決を試みるということを見ました。教会においては、たとえそれが意見の違いであっても、全てをキリストの権威に委ねます。たとえそれが痛みを伴うとしても、私たちは進んでそうするのでしょうか。教会でこの世だけでなく永遠を共にする兄弟姉妹に対して、またこの世において、新しいアイデンティティに従って生きることを望んでいるのでしょうか。その命のため、その御国、神の御国のために生きましょう。祈ります。

1 Corinthians 6:1-11 Dealing with Disagreement

I want to ask you this morning a simple question. Do you get along well with every other Christian you have ever met? If you say you do, I would say you need to meet more Christians. The local church and other Christians are no different than any other group of people in that we don't always get along with others. In fact, sometimes those disagreements become very serious and can involve both personal and even business disagreements. When this happens in the world outside the church, many times it would be normal to simply cut off the relationship and depending on the seriousness of the conflict take it into court and let the court determine liability and fault. But in the church, things should be different, and that is the point of today's passage, 1 Corinthians 6:1-11. **Disagreements between Christians in the church should be settled as Christians.** Let's pray and then look at what exactly that means. Let's pray.

At first reading 1 Corinthians 6 does not seem to connect well with chapter 5. But the more you study the passage you see it is a continuation from his command to discipline the immoral man out of the church. He ends chapter 5 by making the case that while God is not asking or wanting us to separate from and judge the sinners in the world, we are supposed to judge those in the church who claim to be Christians for their sinful actions. So, when he then discusses dealing with disagreements in the church not in court but in church, he is expanding the application of this judging of actions in the church. Now in these first 11 verses of chapter 6, he is not talking about dealing with sin necessarily, but disagreements with other believers in the church. These are not simple disagreements, but matters that could even rise to the level of in the world's eyes needing to take someone to court to settle the matter. When these disagreements happen, **they should be settled as Christians.** What does that mean? That is the question this passage answers. The first answer we see to the question of what does it mean to settle the disagreement as Christians is answered in the first seven verses.

6 When one of you has a grievance against another, does he dare go to law before the unrighteous instead of the saints?² Or do you not know that the saints will judge the world? And if the world is to be judged by you, are you incompetent to try trivial cases?³ Do you not know that we are to judge angels? How much more, then, matters pertaining to this life!⁴ So if you have such cases, why do you lay them before those who have no standing in the church?⁵ I say this to your shame. Can it be that there is no one among you wise enough to settle a dispute between the brothers,⁶ but brother goes to law against brother, and that before unbelievers?⁷ To have lawsuits at all with one another is already a defeat for you. The first answer we see here is that **One, it means we keep it between believers.** Paul's argument is that unsaved judges should not be deciding arguments between believers since the believers true status is part of God's kingdom which sits in judgement of this world. That's the meaning behind us judging angels. Paul likely is thinking of the fact that the fallen angels, the chief of which is Satan himself, will be judged by God. **2Peter 2:4 says, For if God did not spare angels when they sinned, but cast them into hell and committed them to chains of gloomy darkness to be kept until the judgment...** So we know that God will judge angels, but we also know that God the Son, Jesus Christ is over all things including angels. **Ephesians 1:21-22 says, 21 far above all rule and authority and power and dominion, and above every name that is named, not only in this age but also in the one to come. 22 And he put all things under his feet and gave him as head over all things to the church...** Finally, we know that our identity is being "in Christ." And in some way, we as the people of God, as people

redeemed by the blood of Christ, will be a part of the judging of fallen angels in the final judgement. Yet, we submit our earthly petty disagreement to the judgement of sinners whose eternity is with those fallen angels that we will stand in judgement over. That is the argument Paul is making here against taking those disagreements outside of the church community to unbelievers.

But what kind of disagreements does he have in mind here? What does it mean when it says, “trivial cases?” It seems to apply to money and possession type of matters, and unintentional harm. When it comes to matters of gross sin or criminal sin, the response is to remove that person and therefore that sin from the church. This would assume letting societies’ legal systems get involved when necessary. We see that in the case with the sexually immoral man that started this and it would be the same principle that applies in churches today when there is sexual abuse or criminal conduct involved against a child or an adult. The wrong response to that would be to say, this is a church matter. No! Any man, since it is mostly men, who would abuse a woman or child has acted in a way that shows similar character to the man Paul said to remove from the church and turn over to Satan. Our responsibility then is to assist the victim by supporting them to pursue legal actions necessary to hold the offender, whether man or woman, accountable. So, let’s be clear as we continue. We are talking here not about criminal types of behavior or behavior that would mistreat another physically or be abusive. But it is likely behavior that still causes us either financial harm or perhaps makes us have to admit wrong that we are too proud to admit. As Paul continues in this passage, he addresses that with his second description of what it means to settle disagreements as Christians.

Number Two, it means we are willing to be wronged. Read the rest of verse 7. **Why not rather suffer wrong? Why not rather be defrauded? But you yourselves wrong and defraud- even your own brothers!** If we are going to settle matters between believers and keep matters out of the judgement of the world, then that means that sometimes we are going to not get everything we want. But this is in keeping with the humility and love that we are supposed to treat Christian brothers and sisters with. **Philippians 2:3** says, **Do nothing from selfish ambition or conceit, but in humility count others more significant than yourselves.** **John 13:35** says, **35 By this all people will know that you are my disciples, if you have love for one another.** Later in **1 Corinthians**, Paul will give an extended discussion on the nature of love in chapter 13. There in **chapter 13, verses 4-5** we find that **4 Love is patient and kind; love does not envy or boast; it is not arrogant 5 or rude. It does not insist on its own way; it is not irritable or resentful...** So, truly loving our brothers and sisters in Christ will sometimes mean from the way the world thinks, that we end up the loser. Is that what God is telling us through Paul here? Yes! That is exactly what he is saying.

You can try to twist this anyway you want, but the bottom line is that love and unity is more important in God’s kingdom and therefore the church, than any loss of money, possessions or even status or social respect. In Asian cultures, the idea of always saving face, and avoiding shame is extremely important. But what if our values whether capitalistic values we place on money or possessions or the value we place on our honor are not God’s values? We need to treat others in terms of God’s values of love, humility and unity. Unfortunately, even we as Christians act sometimes like these believers in Corinth. Paul points out in verse 8 that, **you yourselves wrong and defraud- even your**

own brothers! So, it was even worse than just not being willing to lose out in order to save a relationship. There were some who were even taking advantage of others in court to better themselves, likely financially. It may not be exactly the same, but I have seen people who treat the church like it exists for them to make business connections or sell products. This is the same mentality that Paul seems to be addressing. Of course it is natural to do business with those you are in close relationships with, like in the church. But, are we going to treat those relationships as simply business transactions if things don't go well or there are problems? We should not. We are different than other people running businesses and forming business relationships.

We see that in the **third aspect of dealing with disagreements as Christians- it means that we act according to our new identity.** Look at verse 9. **9 Or do you not know that the unrighteous will not inherit the kingdom of God? Do not be deceived: neither the sexually immoral, nor idolaters, nor adulterers, nor men who practice homosexuality, 10 nor thieves, nor the greedy, nor drunkards, nor revilers, nor swindlers will inherit the kingdom of God. 11 And such were some of you. But you were washed, you were sanctified, you were justified in the name of the Lord Jesus Christ and by the Spirit of our God.** These judges that you want to decide between your interests and those of a brother or sister in Christ will not inherit the kingdom of God, and in fact they live lives that are filled with sinful actions that show they follow the wisdom of the world in making judgements. It is not by accident that Paul spent a lot of time discussing the wisdom of God versus the wisdom of the world. We will live together for eternity as God's children in God's kingdom if we know Christ. So is it worth taking brothers and sisters in Christ to court over issues that pertain to this world? Things like money, possessions, land, jobs, all those things that the world goes to court over should be treated differently between brothers and sisters, because of our new identity.

Unlike the unrighteous who are characterized by sinful lifestyles that demonstrate their true identity, we are different. Some of us before Christ were the same as they were. Our lifestyle was characterized by those same sinful identities. But now in Christ, we are exactly the opposite of that sin that characterizes those without Christ. Instead, we are sanctified and justified and filled by the Holy Spirit. Sanctified means that we are made holy. This happens at salvation. In Christ, we are no longer sinners, but saints, holy or sanctified people. That is positional sanctification. In other words, God looks at us and sees us positionally under or clothed in the righteousness of Jesus Christ. It does not mean immediate sinlessness. We still struggle with sin, but it does not define who we are anymore. If it does, then we are not saved. Not only does Christ bring sanctification, but justification as well. You see, all of us are under a death penalty because of our sin. **Romans 6:23 says, the wages of sin is death...** We are guilty of our own sin and that brings the death penalty. But when we turn to Jesus and accept him as Lord and Saviour, then he declares us to be not guilty of our sin, because it has already been paid for by Jesus Christ on the cross. That is the definition of justification – God declares a guilty sinner, not guilty. This all happens not by any action on our part, but completely by God. It happens only when we are found to be in Jesus Christ and that only happens by the work of the Holy Spirit. **Titus 3:5 says, 5 he saved us, not because of works done by us in righteousness, but according to his own mercy, by the washing of regeneration and renewal of the Holy Spirit.**

If you are here today, and have not accepted Jesus Christ as your Lord and Savior, then according to the God's Word, the Bible, you share the same identity with all those who commit the sins listed in these verses, which makes your identity to be "a sinner". But the good news of the gospel is that because of Jesus Christ's death, we can be made new by being saved from our sin. [Romans 5:8 says, 8 But God demonstrates his own love for us in this: While we were still sinners, Christ died for us.](#) If our identity before Christ was sinner, we should not return to that same identity. So to settle our disagreements between believers as Christians it means first of all, that we keep it between believers, secondly, that we are willing to be wronged and finally here that we live according to our new identity, and reject actions or attitudes towards others that reflect our old identity.

Maybe you're asking yourself if this could really happen in a church? Maybe it only happens in really unhealthy churches, but surely not our church. It is entirely possible and even probable that these disagreements will happen in every church. We have had minor disagreements and even some more serious and have handled some better than others as a church. Disagreements are inevitable as long as we live in this world, but when they happen in the church, we have a Biblical responsibility to try to solve them in the church to every extent possible. There are Christian groups that specialize in Christian mediation. For a situation we are still working on, YIBC has used a Christian lawyer to work out a lease agreement with fellow believers without it going to court. I would also say that it can be the role of church Elders or Pastors to assist believers in settling disagreements. One of the reasons Deacons were given to the church is for unity, and this would include mediating disagreements sometimes as well. We brought up Matthew 18 when discussing church discipline last week, but that passage doesn't start with taking situations to the church, it starts with going to the person individually and then bringing one or two other in as needed to find a solution. Everything in the church is about submitting everything, even our disagreements to the Lordship of Christ. Are we willing to do that, even when it hurts? Are we willing to live by our new identity in the world and also in the church towards brothers and sisters who we will spend not just physical life with, but eternal life? Let's live for that life, for that kingdom, God's kingdom. Let's pray.